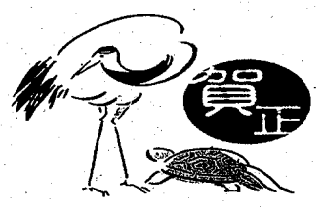
謹んで新春のお慶びを申し上げます



ふれあいのひろば

かわら版

平成14年1月1日発行
上平間第二町会
編集責任者
堤　秀夫
後藤清吉
印刷所　長谷川印刷㈲

年頭のご挨拶と抱負
高齢社会における町会の役割
第二町会に研究チームが発足

明けましておめでとうございます。

年頭にあたり一言、新年の抱負を述べさせていただきます。

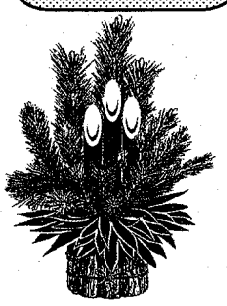
世界に例を見ないスピードで進む日本の高齢社会は、私たちの地域社会にも確実に変化を及ぼしていますが、その対応はほとんど行政のみに任されている状況にあります。孤立した老人の核家庭や老人のみの暮らす世帯が急増している中で、地域防災、地域防犯、地域福祉など、地域として取り組むべき問題、課題は多々有る筈であります。

地域社会の住民組織として老年、壮年、青少年を束ねた活動体である町会が責任の一端を担っていく必要が有ります。そこで町会が着いた段階では、研究チームを解消して、町会に高齢社会部を設置する構想も持っております。町会員の皆様におかれましては、私の意の有るところをお汲み取り下さり、ご理解とご協力、またご指導とご鞭撻の程をよろしくお願い申し上げます。

二〇〇二年が皆様に、よりご多幸の年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

平成十四年一月一日
年頭のご挨拶を兼ねて

上平間第二町会
会長　森　善一郎



上平間地名の沿革

副会長　山上　正

上平間第二町会は、丸子ポンプ場付近を、区の基点として、多摩川沿いに一区から十二区・上平間住宅・公務員社宅・日立住宅・ロイヤルコーポ・クリオ住宅に区分けされ、上平間第一・伊勢浦と幸区の古市場・下平間の各町会に隣接し中原区の末端の町会で細長く、川崎市を小さくしたような町会です。

治承四年(一一八〇年)の記録によると、平間・中丸子・古川・小倉・小向・戸手・江ヶ崎・矢向・南河原・堀之内・小田・中島・大島・大師河原これら全体を川崎庄と呼ばれていたそうです。

当時の平間は、川崎庄の平間といわれたものと思われます。

橘樹郡役所が最初に設置された成仏寺

明治二十二年(一八八九年)四月一日、市制町村制の施行に基き、橘樹郡六十九町村は、一町十二村に改められ川崎町・御幸村・大師河原村・田島村・住吉村・日吉村・高津村・中原村・橘村・宮前村・向丘村・生田村・稲田村の町村が誕生しました。「御幸村の語源についてはご存じだと思いますが、明治十七年(一八八四年)三月十九日うです。二百年余の年月を経て、明治天皇が御幸村の梅林（現在の御幸球場）に御幸観梅遊ばされたのを記念して名付けられました」従って、地名は橘樹郡御幸村上平間となりました。尚何時のころからかは明らかではないが、上平間村には、田尻・北谷・北村・天神台・五畝洲の小地区名があったそうです。

大正十三年(一九二四年)七月一日に、川崎町・御幸村・大師町が合併し、川崎市が誕生しました。

明治十一年(一八七八年)十一月十八日、郡区町村編成法により、橘樹郡が生まれ、橘樹郡平間村となりました。

人口は約五万二百人位であったそうです。地名は御幸村上平間から川崎市上平間となりました。

寛政元年(一七八九年)頃に作られた絵図によると当時の上平間の世帯数は八十四戸であったそうですが、趣味の領域でありますので知っている限りの竹とんぼに関する薀蓄を傾け、彼女たちと対談致しました。

実はこの対談は総て生放送で、この内容があの広い会場全体の隅々まで知れ渡ったようでした。メディアの力は偉大です。放送が終わってから、ものの五分も経たない内に子供たちが続々と買いに来ました。今まで声を嗄らして客の呼び込みに懸命になっていた、町会のセールスレディ？達も攻守逆転、一転して売り手市場です。

「さあ、みんな並んで、二列よ二列！、あんたは何本？、お宅は何本ですか？」面白いように売れます。残りもだんだん少なくなっていきます。

「さあ、あとはひとり一本ずつよ。とんぼやさん、早く作って！」

セールスレディの声も今度はソプラノです。お客は続いて参ります。予備の竹とんぼを急いで作りますが、お客の要望には応えられません。結果は四百五十本総て売り尽くしました。規定の閉店時間午後四時の一時間前です。余裕の完売でした。

（柳の下に泥鰌は二匹いました）

文化部

なかはらゆめ区民祭
竹とんぼ繁盛記

（柳の下に泥鰌は二匹いたか）

去る十月十四日なかはらゆめ区民祭が等々力緑地で開かれました。当町会も前年と同様出店致しました。中身は言わずと知れた〝スーパー竹とんぼです〟当初は七百本を販売する予定でしたが、種々の都合で完成品を四百二十本、現場で実演工作する竹とんぼを三十本、計四百五十本を持っていきました。

朝の内は予定の客数のようでしたがどうも昨年の様な調子ではありません。午後二時を少し過ぎた時点で、また二百本近く売れ残っています。前回は二時間で二百本を完売致しました。やはり〝柳の下には泥鰌は二匹いないのか〟と半ば諦めかけていたところ、偶々私たちの店の前へ〝FMかわさき〟の取材記者が参りました。頗る美人の二人です。彼女たちは私に竹とんぼについて色々と取材の質問を問いかけて参ります。私は相手が美人だからという訳ではありませんが、趣味の領域でありますので知っている限りの竹とんぼに関する薀蓄を傾け、彼女たちと対談致しました。

実はこの対談は総て生放送で、この内容があの広い会場全体の隅々まで知れ渡ったようでした。メディアの力は偉大です。放送が終わってから、ものの五分も経たない内に子供たちが続々と買いに来ました。今まで声を嗄らして客の呼び込みに懸命になっていた、町会のセールスレディ？達も攻守逆転、一転して売り手市場です。

「さあ、みんな並んで、二列よ二列！、あんたは何本？、お宅は何本ですか？」面白いように売れます。残りもだんだん少なくなっていきます。

「さあ、あとはひとり一本ずつよ。とんぼやさん、早く作って！」

セールスレディの声も今度はソプラノです。お客は続いて参ります。予備の竹とんぼを急いで作りますが、お客の要望には応えられません。結果は四百五十本総て売り尽くしました。規定の閉店時間午後四時の一時間前です。余裕の完売でした。

（柳の下に泥鰌は二匹いました）

文化部

日帰り研修バス旅行

昨年十一月八日(日)町会では表題のとおり、日帰り研修会を行いました。これは一昨年の厚木防災センターの見学と、防災と消防に関する勉強会の第二弾です。今回は環境衛生問題等の勉強会でした。

参加者は、委員及び理事さん方も八名参加され、全員三十五名で横浜のビジネス街とその周辺を歩いて回りました。収穫はまあまあの状態でした。時間に余裕がありましたので、帰途は木更津方面に行き健康の為、プールで泳ぎ？全身運動をして軽い食事を摂り、帰途の車内も和気藹々の内無事に会館に帰って参りました。

今回のバスにはガイドはつきません。費用削減の為であります。今までは（一昨年の研修会前）町会役員だけの慰安旅行を毎年秋に一泊二日の温泉旅行を行なっていましたが、これは単なる慰安旅行であまりメリットは無かったのではないかと思われます。一応それなりの目的は果たせたのかとは思いますが費用が莫大にかかります。勿論各会員が毎月費用を積み立てていたそうですが、それでも町会から補助金がそれなりに出ていたと思われます。今回の研修旅行は、それらの出費を極力抑え、少ない費用で大きな収穫を得るために計画したものであります。これは今後に於ける町会の改革の一端でありますす。委員、理事、役員の皆様にも是非この意をお汲み取り下され、次回の研修会には皆様全員がご参加されることを願って居ります。

祭礼

昨年の九月六日、七日の両日恒例の八幡大神の祭礼が行われました。例年ですと二日間の内どちらかの日に必ず雨が降るのですが、昨年は幸いにも両日とも晴天で最良のお祭り日和となりました。それと毎年、お神輿の担ぎ手が少なくなってきているのですが、当日は他所の元気のよい担ぎ手（お祭り好きで全国何処へでも出かけるお祭り好きファン）が四人も応援に来てくれて、大変威勢のよいお神輿の渡御となりました。また、子供達が曳く山車も例年ですと、曳き手が非常に少なく元気が無かったのですが、今回は神輿同様最初から大勢の子供達が集まり、大変賑やかな山車となりました。それと、神社の神楽殿での催しものにも当町会では、民謡踊り、フラダンス等々を披露し大きな拍手と喝采を頂きました。町会と致しましては、毎年この様な賑やかなお祭りに致したいと願っております。

総務部

玉川地区町内会
連合運動会

昨年十一月三日の文化の日、恒例の、玉川地区町内会連合運動会が、玉川小学校に於いて挙行されました。

当町会も少年少女組と、壮年組も大勢参加し、大変賑やかで迫力のある運動会でした。当町会の選手達も各種の競技に出場、大いに頑張りました。しかし、選手の活躍は勿論父兄や大勢の応援も空しく、いやベストを尽くしましたが、残念ながら六位に甘んじました。この成績は前回と同様です。来年度は是非優勝、もしくは上位入賞されることを期待しております。

自転車防犯パレード隊を編成
中原区防犯パレードに参加

上平間第二町会では犯罪者の近づかない町づくりを目指して、町会の役員、理事、委員さんのご理解の元に、使用している自転車の前籠にオレンジ色の防犯パトロール中の掲示をお願いしてきました。

町の中でこの掲示をつけた自転車に行き会うことが多くあることに町会員の皆様もとうにお気付きの事と思います。

去る十月十三日に中原警察署と中原防犯協会の主催する防犯パレードが平間中学校から平間銀座、平間駅、玉川小学校まで約1時間のコースで行われました。

当日はパトカーの先導により大西学園中高吹奏楽部女子生徒を先頭にしたパレードが晴れやかに、華やかに実施されましたが、第二町会からは子供会、平間小PTA、そして自転車パレード隊四十二名がオレンジ色の掲示と旗を掲げて行進しました。沿道の皆さんから盛んな声援を受け、主催者側からも賛辞の電話が森会長にありました。これを機会に更に防犯意識の向上に努め、安全な町にしたいと思っております。

防火防犯部長　鈴木治夫

A君の妻子に栄えあれ

東京生まれの一青年が青雲の志を抱いて十五年前にブラジルに渡った。金、銀、宝石を掘り当てる為である。友人と二人で山奥に入り、艱難辛苦を舐め、努力したが力尽きて挫折した。

今は日本人観光客を相手の旅行社に雇われ、ガイドをしている。日本から苦労して迎えた奥さんが居るが、子供も出来て生活は苦しい。青年をA君と呼ぶことにする。

A君はブラジルをわかりやすく紹介するため、例え話を交えて次のように話し始めた。

〈さて皆さん、スペインとポルトガルの違いを知っていますか。スペイン人は血を好み闘牛でも牛を殺しますが、ポルトガルでは殺しません。もし日本にスペイン人が先に来航していたらどうでしょうか。インカ帝国の例を見ても明らかです。ポルトガル人は穏やかなんです。

ブラジルは南米で唯一のポルトガル領だったので、ナポレオンに追われた国王が大勢の貴族と共に逃げてきました。その影響で文化も高いのです。また血気盛んな青年達も一旗揚げようと大挙して大西洋を渡りました。そしてインディオの娘達と混血しました。今では全部の人達が混血しています。肌も髪も白、茶、黒と種々です。ですが流れている血が同じなので人種差別は無いのです。〉

A君の話はわかりやすく説得力があった。しかし、誰かが冗談めかして、「俺は白がいい」と大声でいった。A君は爽やかに笑って、「ブラジルに残って僕と一緒に暮らしましょう。考えはすぐに変わりますよ」と応じ、そして「僕はここに骨を埋める覚悟です」と付け加えた。その顔にはブラジルで妻や子を幸せにする為に必ず成功してみせる、という悲壮な決意が漲っていた。好青年A君の為に心から祈りたい。「A君の妻子に栄えあれ！」と。

投　稿＝（匿名希望）

老夫婦の旅だより③
素裸で踊るインドの少年

印度のジャイプールは別名ピンクシティと呼ばれる美しい町だ。

遥か東方の国から観光に来た老夫婦はホテル近くの駅を観ようと朝靄の中を散歩に出た。すると忽ちスッポンポンの数人の小さな少年達と泥まみれの母親達に取り囲まれた。母親達は口にものを入れる仕種をして食べる物が欲しいという。少年達は老夫婦の周囲を踊り出した。よごれたアルミの食器を手に持ってポンジャン、ポンジャンと叩きながらグル廻っている。一糸まとわず真に壮観だがなんとも気色が悪い。引き返そう！、だが少年たちの踊りは老夫婦がホテルの中に逃れるまで続けられた。後になって老夫婦はその時に小銭を持合せていたのに、逃げることしか頭になく貧者に恵みを与える印度の風習に背き、気の毒な母子達に何もしてあげなかった事に気が咎め、今度は再び門外に出て、あの母子達の姿を探し求めるのだった。

投　稿＝（匿名希望）

感涙にむせぶ豪州の難民少女

西豪州のパースは世界で一番住環境の良い美しい町といわれる。遥か北方の国から観光に来た老夫婦は、この美しい町の一夕、とある中華料理店に入った。この店には十代後半の少女が働いていて、自分がベトナム難民で、バンコクの有名なOホテルで雑役をしていたと語りかけてきた。

老夫婦は偶然にもOホテルのTシャツを着ていたので、少女は頻に懐かしがり、感極まって涙をポロポロと落としていた。パースを離れる前夜に、老夫婦は少女への贈物として洗濯したTシャツを持ち店を訪れたが、既にここには居なかった。

そうと知っていたら、この前に来たときにもっと暖かい言葉をかけてあげればよかったのにと悔いが残り、老夫婦は無駄と思いつつ、明りの灯った繁華街を少女の姿を求めて逍遥するのだった。

投　稿＝（匿名希望）

ビデオ健康講座

上平間第二町会では、設置したビデオを活用して健康講座を取り上げ、去る十月二十八日に、高齢社会の身近な問題となっている、「在宅介護の実際」のビデオ放映の場をつくりました。

当日は小雨降る天候にも拘らず五十名の大勢の方達がご覧になりました。ビデオは老人性痴呆・失禁・褥瘡・骨粗そう症の四本でした。最初の痴呆の老母が電気自動炊飯器をガスコンロの上に載せて点火しようとするシーンに会場から驚きの声が上りました。この老人性痴呆をはじめ、何れの題名の症状にも出来ればなりたくないものです。

健康管理を充分に行えば可成り予防出来ること。早期発見・診断と適切な治療で治ること。看護での患者との接し方・対処法等を学び、大変参考になりました。

今後もビデオ放映による健康講座を続けますのでご参加下さい。

衛生部長　日渡修

青い珊瑚礁の空に羽ばたく
スーパー竹とんぼ

シニアの人々には懐かしい映画に、青い珊瑚礁というアメリカ映画がある。難破した船から老人と小さな男女二人の子供が救命ボートで無人島にたどり着き、やがて老人が死に、残された子供二人は懸命に生き抜いて、大人になっていく迄が美しい珊瑚礁の島を舞台にドラマティックに繰り広げられていく。

この撮影が何処で撮られたかは知らないが、オーストラリアのグレート・バリア・リーフはイメージがぴったりの場所に思える。

コバルトブルーの青い海、きらめく陽光に溢れた青い空の広がる珊瑚礁の島の海岸で、スーパー竹とんぼを飛ばしたらどんな気分になるだろうか。思い叶って国際竹とんぼ協会のG氏から数本の竹とんぼを譲り受けて持参し、実際に飛ばすことが出来た。

高く飛ばし、横に飛ばしすると、この手作りの可愛らしい飛行物体については、この地では見たことも、聞いたこともない代物であるから堪らない。世界中から集まっている観光客は、どよめき、触れたがり、飛ばしたがった。大拍手、大喝采が起こった。グッドアイデア、グッドアイデアといって手を伸ばしてくるが、選択権はこちらにある。手にしたことが出来たのは女性達であった。

中国の万里の長城に次いで行われたロマンに溢れたこの快挙、次はどの地で繰り広げられるのか真に楽しみなことである。

投　稿＝（匿名希望）

幻の矢野切手

郵便切手を蒐集している人でもごく一部のマニアを除いては、矢野切手と言われても、知らない人がほとんどであろう。先の大戦で日本軍は南方占領地で数多くの郵便切手を発行した。現地の切手に大日本帝国郵便と加刷したものに始まり、ちゃんと印刷した正刷のものまである。矢野切手はビルマの占領初期に日本の司政官・矢野氏が印刷会社の倉庫にあった象の透かし入りの紙に、自分の印鑑で朱肉の押印をしたものである。したがって発行数も限られている。

本物なら希少品なので値段も相当高価になるはずである。ところが一万円程度の値がついている。切手商に頼んでおくと時間はかかるが手に入る。しかし、この郵趣の世界ほどモラルに欠けているところも珍しい。偽物がわんさと流通していて、印鑑の形が微妙に違っていたり、透かしが違っていたりして始末が悪い。切手商でも真贋は判らない。ではどうしたら良いのか。手を出さないのが一番だがどうしても欲しければ、所有者のルーツを探って確かめるしかない。私も田型を含めて何枚か所有しているが、旧三井財閥の三井氏のコレクションから出たと説明されて信用することにしている。というより本物の可能性に賭けてみたと言った方が正しいだろう。ところで誰ですか。

「何でも鑑定団に出してみろ」なんて言っているのは。もし偽物だったらどうしますか。他人の気持ちも知らないで。…

投　稿＝（匿名希望）

短歌　俳句　川柳

長安の古き鐘楼巡りつつ
　吐く息白き自転車の群
寒山寺年越しの鐘突くがため
　シナ海渡る三千の人

俳句

競いつつ舞いながら落つ
　銀杏の黄
萱草色
　叢に狂いし木瓜の朱

川柳

挨拶は現実無視の虚言述べ
　（政治家）
挨拶は現実見据え実意述べ
　（町会長）

羨ましい資格

私は勤務先が定年になってから既に十年以上が経ちます。定年後は子会社や、その他の会社に勤めましたが、今はただの年金生活者です。しかし、ただ年金を頂いて家でゴロゴロしていては、何となく世間体が悪くそれに健康にもよくありません。

そこで、収入は少なくてもいいから何か適当な仕事はないかと、ハローワークに通ったり、新聞、チラシの求人広告などを見て捜しましたが、この年では何処にも全然ありません。そこでハタと思いついたのが銭湯の番台です。あそこなら労働もせず頭を使うこともなく、我々の様な高齢者でも出来そうだ。そう思い早速某銭湯に行き使って貰うよう経営者に頼みました。銭湯の主人は「うちでは他人を使わない」との返事でした。

そこで給料は別に希望は無い、最低でも結構だからと重ねて頼みました。件の主人は渋い顔をしています。それでは毎日で無く週に一度か二度でもいいからと粘りました。主人は今度は苦虫を噛み潰したような顔で答えました。「この仕事には資格が要るんだよ」。

へえ！こんな高台にただ座って、前を見ているだけで、何の資格が必要なのかと厚かましく訊いたところ、「これは経営者かその家族にしか出来無いんだよ」さあ早く帰れと言わんばかりの顔で言ました。成る程そうか、やっと分かりました。

一般の人が番台に座っては、風紀上の問題が生じるかも知れません。兎に角生まれたままの姿を他人に高いところから見られるのですから……しかし、私達の様な高齢者はもう人畜無害です。それを程気にする事はないと思うのですが、女性にとっては嫌な事かも知れません。でも中には年寄りの男など屁にも思っていない若い元気？な女性たちも居ります。

私は温泉が好きで時たま地方の露天風呂に入ります。そんな時こちらが一人と見ると若い女性たちは、前も隠さずにそこも洗わずどぶんどぶんと嬌声を上げながら飛び込んできます。

わが国には無数の国家試験、資格、免許等があります。一所懸命勉強し努力すれば、一応誰でもある程度の資格、免許が得られ且つ希望の職業につく事も可能です。

しかし、この番台に座るには、東大文一、理一を主席で卒業しても取れません。不思議ですね。法律でそうなっているのか今度六法全書で調べてみたいと思っております。「何れにせよこの番台に座ると言う事は、本当に楽しい良い仕事です。あそこに座っている奴は羨ましい。一生に一度でいいからあの場所に座ってみたいと、兼がね思っていたのですが皆さんは如何ですか。本当に残念だな！」

五等星

『棕櫚の樹を差し上げます』

高さ一・三メートル直径約八センチ
ご希望の方は
どうぞ採りに来て下さい。
上平間三六二一　五区一組
電話五二三一二八二九
後藤清吉